トピックス

ご案内：先月号の本欄でお知らせした金安公造氏は金安進氏の誤りでしたのでお詫びして訂正します．

中・高年化社会とCE J

昭和50年度国勢調査の20％抽出集計報告によれば，65歳以上の老年人口は全体の7.9％に達し，この比率は戦後上昇の一途をたどっており，国民全体の平均年令は今後ますます上昇することを指摘している．一方，昨年の土木学会関西支部の調査では，40年以降の大学卒会員が急速に増加し，全体の平均年令は30を少し越えたことを報じている．このことは，最近の土木系学生の就職戦線においても，官公庁および中堅企業は業績の不振，財政難もさることながら，40年代新卒者のとりすぎで，土木技術者がだぶついていることを理由に採用の見合せまたは数の削減を行っていることからも裏づけられる．まだまだ，日本の社会では，終身雇用，年功序列の思想が根強いことから考えて，土木技術者の中・高年令化は今後，ますます助長されることは疑う余地もない．最も感受性が鋭く，自分の考えを卒直に行動に移せる年代は10代の後半から20代にかけてである．もし，このような若い人たちの活動の場を，体験のみを振りかざした中・高年技術者が封じ込めてしまうならば，創造性を最大のよりどころとする土木技術者の魅力は失われてしまい，優秀な若い人たちから見離されてしまうのではないだろうか？

最近の大学入試における工学部入学者の合格最低点の低下傾向がその前兆を現わしてなければよいのだが…….

土木に思想を C

今年の就職シーズンも終わりに近づいてきた．振り返るまでもなく，今年も高校土木科の卒業生は苦戦であった．しかし，就職希望者は，卒業までに何とかなる見通しがついたので，関係者の一人として，ホッとしている所である．

景気の良いときは，生徒数の数倍もの求人件数があり，ほとんどが希望の会社に入れた．給与面でも，卒業した年のボーナスがわれわれ教員よりも多額であった．全く情無い時代，と嘆いたものである．その反動という気持はないが現在のように，本人の希望どおりの会社にはなかなか入れないほうが良いと思っている．学生時代にも厳しさを味わったほうが人間として成長するのではなかろうか．

『土地と日本人』の中で司馬遼太郎も言っているように，いままでは不況に強いといわれていた土木であるが，現在は，有史以来の試練に会っている．思想のない技術に対し，反発を受けているという考え方に，われわれは素直に耳を傾ける必要があると思う．ちょうど，このようなときに，土木学会の土木史研究委員会が，近代土木技術の黎明期を探るシンポジウムを開くことは，まことに意義のあることと期待している．ぜひとも，思想のある土木技術の発展という考え方で，過去を見て整理し今後のよりどころとなる土木思想なるものをまとめ，若い土木技術者に教えてほしいと願うのは私一人ではあるまい．

パイプラインを日本へ S

アメリカ合衆国の石油類の輸送は，その45％がパイプラインにより運ばれている．液体の連続的な輸送にはパイプラインが最適であり，安全性・経済性・省力性・省エネルギー性に，優れた合理的輸送手段といえる．日本においては，ガスのパイプラインは存在しても，石油類の長大パイプラインはまだゼロである．現在計画中のものとして，成田新空港への燃料輸送用パイプライン，国鉄の京浜―南埼玉パイプラインなどがあるが，地元の反対等により実現するに至っていない．現在，公共事業の多くが同様な理由により滞っているが，国全体としての広い視野に立った議論が切望される．もちろん，施行者においては，公共事業という美名に隠れることなく，世界一厳しいといわれる，日本の「パイプラインの技術上の基準を定めた省令，および告示」にのっとるとともに，安全性には十分な配慮をはらうべきである．

パイプによる輸送システムは，現在のガス，水道に限らず，将来の合理的物流システムには不可欠のものであり，石油，水素エネルギーシステム下の水素輸送，廃棄物収集システム等，使途は広い．いま，アラスカにおいて，長大パイプラインの建設が進められているが，溶接を始めとしたパイプライン技術に広範な関心を持つとともに，日本においても一日も早くパイプラインができることが望まれる．